No. 117 May 2022

AAINews
人と農と環境をつなぐ技術を考える

国際耕種株式会社
〒194-0013
東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
tel　042-725-6250
fax　042-785-4332
mail aai@koushu.co.jp
URL www.koushu.co.jp

アチョリの名前（1）

名前というのは、その国や民族、文化が反映されていて興味深い。筆者が業務しているウガンダ北部アチョリ地域では、ナイル語系諸族が用いるルオ語の系統であるアチョリ語が話されているが、今回はこのアチョリ語の名前をいくつか紹介したい。

アチョリの人々の名前は、基本的にアチョリ名＋英語名*1 で構成されている。例えば、ニェロ・フィリップは、どちらも名前で苗字はない。このアチョリ名には、日本人の名前と同じようにそれぞれ意味がある。ニェロは「笑顔」という意味であるが、彼は笑いながら生まれてきたらしい*2。他にも肌の色が淡い子が生まれると「白い」という意味で、男子はモノ、女子はラモノと名付けられたり、生まれつき指にイボがある子が生まれると「6 本指（多指）」という意味で、男子はオジャラ、女子はラジャラと名付けられる。

出生によって決まっている名前もある。双子の兄姉はオチェン/アチェンで、弟妹はオピオ/アピアである。そして双子の次に生まれた子供はオケロ/アケロであり、さらに次の子はオドン/アドンと決まっている。ちなみに本人が生まれる前に片親が亡くなっていた場合もオドン/アドンと名付けられるらしいのでややこしい。

もう一つ興味深いのは負の意味の名前を持つ人が多いことである。例えば、ニェコは「嫉妬」という意味である。一夫多妻のアチョリでは、その子が他の妻たちの嫉妬を買うことも珍しくないらしい。「呪い」という意味のキラマ、「不運な男」という意味を持つコマケチは、生まれる前後に家族に不幸な出来事が起きたためにそう名付けられたそうだ。もちろん普段の生活で、名前の意味を気にすることはないが、筆者はその名付けの背景が気になったので、友人たちに聞いてみた。

まずアチョリでは子供に名前を与えるのは親族の年長者であり、その子の実親は名前を与える権利を持っていないらしい。それゆえ両親の想いとは関わりなく、負の意味の名前もつけられるようである。加えて、文化人類学的には、アチョリに限らず、文字を持たなかった民族はその時の出来事を記録するために、その時の出来事にちなんだ名前を子供に付けることは珍しくないらしい。このことをアチョリの友人に訪ねたところ「確かにそういう意味合いもあるかもしれない」とのことであった。例えば、コマケチは割とよくある名前であるが、その子の前に生まれた子が亡くなった場合に付けられることが多いらしい。コマケチという名が多いのは、それだけ生まれた子が亡くなることが多いのだろう。一方、「悪霊対策のために、負の意味の名前を用いる」という話はアフリカに限らず世界各国で耳にするが、アチョリ名にはそういった意図はないらしい。

ただ、名前の傾向も時代とともに変わってきているようである。筆者の友人たちの子供もラケ「姫」、オテカ「英雄」など割と明るい名前が多い。コマケチさんの中には、コマグンと自ら改名した人もいる。「幸運な男」という意味らしい。

筆者は業務で 2,000 人以上のアチョリ名を入力したことがある。最初は単調な作業であったが、一つ一つの名前の意味を教えてもらってからは、名前の向こうに知らない人の顔が見えるような気がして、ずいぶんと楽しんで取り組むことが出来たのを覚えている。

（2022 年 4 月 澤田）

*1 英語名は宗教や著名人、知人の名前などから、比較的自由に付けられる。
*2 ほかにも「生まれたときに周りの人が笑顔になった」または「嘲笑」という負の意味もあるとのこと。